



令和6年度 宇都宮市冒険活動運営協議会

日時：令和7年2月6日（木）9:30～11:00

会場：宇都宮市冒険活動センター会議室

1. 会長・副会長の選任について
2. 報告事項
令和6年度事業報告について
3. 協議事項
令和7年度事業計画(案)について
4. その他
今後の冒険活動センターの運営について

令和6年度宇都宮市運営協議会委員名簿



NO	区 分	委員名	団体名等	備 考
1	学識経験者	石塚 諭	宇都宮大学准教授	
2		平野 勝	篠井地区ゆたかな まちづくり協議会会長	
3		大野 英克	県林業センター場長	
4		坂内 剛至	ネイチャープラネット代表	
5	社会教育関係	佐藤 要	市PTA連合会	新任
6		大関 啓二	市子ども会連合会	新任
7		櫻井 政義	市ボーイスカウト・ガール スカウト連絡協議会	

令和6年度宇都宮市運営協議会委員名簿



8	社会教育関係	早川 慎一	市レクリエーション協会	新任
9		月橋 春美	県キャンプ協会	
10	学校教育関係	須田 浩太郎	市小学校長会	新任
11		高橋 裕一	市中学校長会	
12	公募	森嶋 礼奈	会社員	新任
13		塚原 綾子	専業主婦	新任

冒険活動センターの概要

○開 所：平成8年7月

○設置目的

未来を担う子どもたちに豊かな自然と触れ合う体験の場を提供することにより，健全な成長を促すとともに，市民の野外でのレクリエーション活動を推進する。

○管理運営：宇都宮市教育委員会事務局
学校教育課

<人員配置>

市職員	所長(1)，副所長(1) 指導主事(4)，主任(1)	計 7人
会計年度任用職員	管理業務(2)，看護業務(2) 受付業務(1)，専門指導業務(10) 事業支援業務(22)，事業支援看護業務(1)	計38人

○利用対象

区 分	対 象
①学校受入事業 (冒険活動教室)	宇都宮市立の全小中学校94校 小学5年生， 中学1年生
②一般受入事業	家族， グループ， サークル 社会教育関係団体， 学校 等
③主催事業	一般市民及び学校や各種団体等の指導者

○運営理念

日常ではない「環境」（自然， 地域， 施設， 人材）を生かし，
「プログラム」（動的・静的）を通じて，
市民(ゲスト)に感動と気づき， 充実感を提供する，
「宮っこのホーム・マウンテン」づくりを目指します。 * 感動＝心が動いた経験

2. 報告事項



2.(1) 学校受入事業

ア. 冒険活動教室

- ・ 宿泊数 : 全校2泊3日
 - ・ 通常実施 : 小学校56校, 中学校25校
- 【実施状況】(1/24現在)

➡ R6年度 残13校
計 **8,900** 人 ※見込み



○国有林伐採の為, 代替コースにより実施

- ・ 3山折り返しコース (榛名山・男山・本山) ⇒ 3校実施
- ・ ロングハイキングコース (高館山・黒戸山・兜山) ⇒ 3校実施

2.(1) 学校受入事業



＊引率者アンケートより＊

- ・「新しい友達ができました！」等と話しており、子どもたち自身が大きく成長したことを感じられる素晴らしい時間になったのだと思った。
- ・自然の中で大勢の仲間と共に過ごす経験は、子どもたちにとって大変貴重なものとなった。親と離れて夜を過ごすことも初めての子が多く、不安や緊張を乗り越えたことで一まわり大きくなったように感じる。
- ・子どもたちの今まで気づけなかった本当の姿を見ることができた。指導員のみなさんから励みになる言葉を掛けてもらうことで、子どもの意欲が高まっていた。この成長を冒険だけのものにするのではなく、今後もしっかり指導していきたい。



イ. 冒険活動事業の効果に関する調査研究

『冒険活動教室が児童生徒の自己肯定感に及ぼす効果に関して』

(ア) 調査目的

教育再生実行会議第十次提言（平成29年）において、子供たちの自己肯定感※の低い状況の改善が重要であるとされ、子供たちの自己肯定感を育むための1つの方策として「青少年教育施設などの地域資源の活用や、民間機関等との連携による体験活動の積極的推進」が挙げられている。

そこで、冒険活動教室が本市の児童生徒の自己肯定感に与える影響を明らかにすることにより、自己肯定感を育む教育活動の充実と効果的な冒険活動教室実施の一助となるようにする。

※ 自己肯定感とは：自己評価を行う際に、自分の良さを肯定的に認める感情

(イ) 調査概要

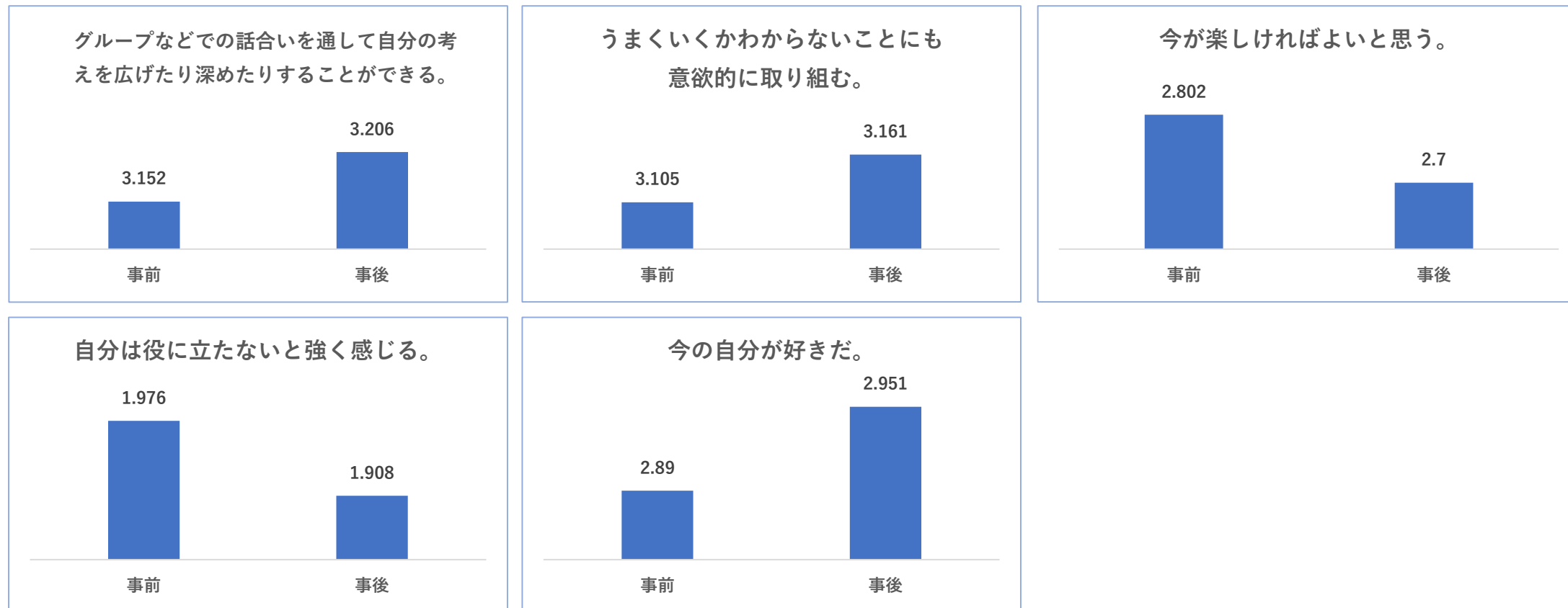
児童生徒のアンケート調査に基づき冒険活動教室の満足度、自己肯定感の変容を測定、分析することにより、冒険活動教室の教育的効果を明らかにする。なお、本調査は、宇都宮大学石川隆行准教授に指導助言を仰ぎ実施。

- I. 方法：4件法による「冒険活動教室アンケート調査」体験活動の事前と事後 調査時間：10～15分程度
- II. 対象：冒険活動教室に参加した児童生徒（※ともに各学校1学級抽出）
- III. 調査期間：令和4年から令和6年
- IV. 項目
 - ① 冒険活動教室の期待度・満足度（4項目）
 - ② 自己肯定感に関すること（13項目）
 - ③ 学習指導要領で掲げられている「対話的な学び」の基礎となる部分に関すること（4項目）
 - ④ 印象に残っている活動に関すること（1項目）

2.(1) 学校受入事業

(ウ) 調査結果

○「印象に残っている」という回答が多かった活動との相関（令和5年アンケート調査より）
＜小学校＞ イニシアティブゲーム（1635人中1111人回答）



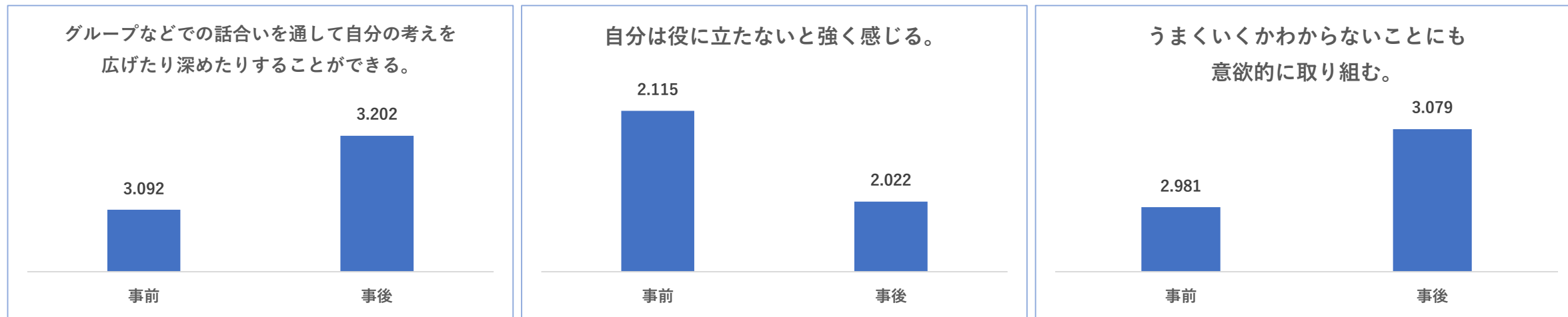
イニシアティブゲームは、一人では解決できない課題（例：高さ3メートルの壁をグループ全員が乗り越える壁）を、グループのメンバーが一人一人の能力を出し合い協力しながら解決する活動である。課題解決方法に正解や間違いがあるわけではなく、ひとつひとつの課題にじっくりと取り組む。その過程で、コミュニケーションが活発になり、お互いを認め合う雰囲気生まれる。その経験が、自己肯定感の変容につながったと考えられる。

2.(1) 学校受入事業

(ウ) 調査結果

○「印象に残っている」という回答が多かった活動との相関（令和5年アンケート調査より）

＜中学校＞ 登山（701人中471人回答）



登山は、山頂という明確なゴールがあり、山に登ることを目的としている。冒険活動センターが中学生に推奨している登山は「縦走登山」であり、所要時間は7時間を超えるコースもある。中学生にとっては、肉体的にも精神的にも一定の負荷がかかる活動である。自分自身の頑張りが結果に直結すること、互いに励ましたり、励まされたりと声を掛け合い、目標を達成したことで得られる成就感や達成感を共有すること、活動後の振り返りにより自分や他者と向き合う時間を通じて気づきを得られたことが、自己肯定感の変容につながったと考えられる。

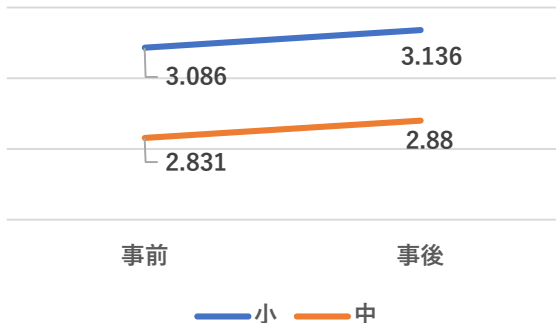
2.(1) 学校受入事業

(ウ) 調査結果

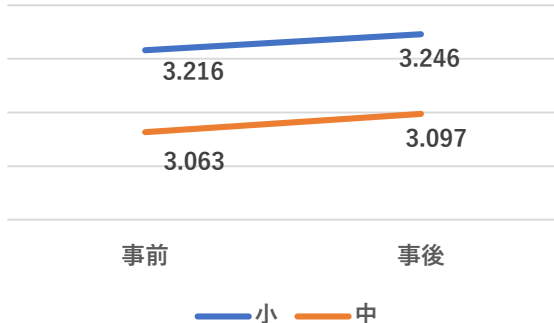
○ 自己肯定感の変容

4 点満点の平均値を算出

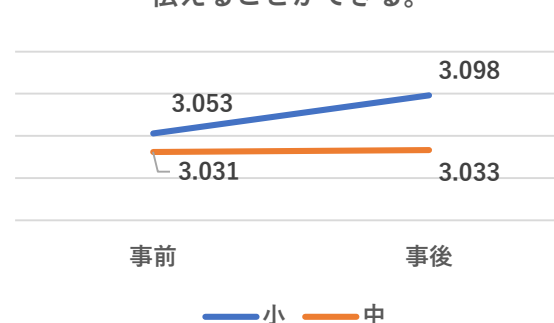
私は、自分自身に満足している。



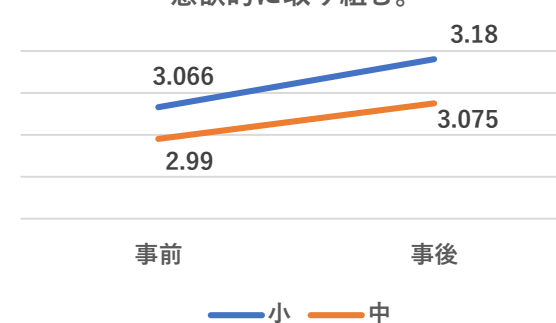
自分には長所があると感じている。



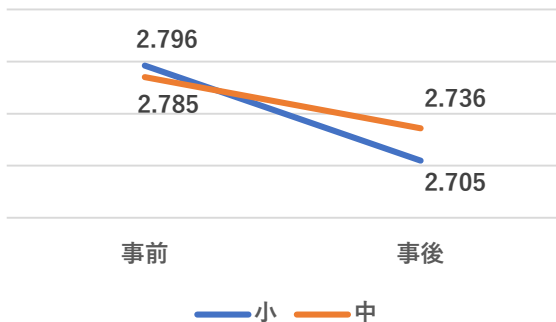
自分の考えをはっきり相手に伝えることができる。



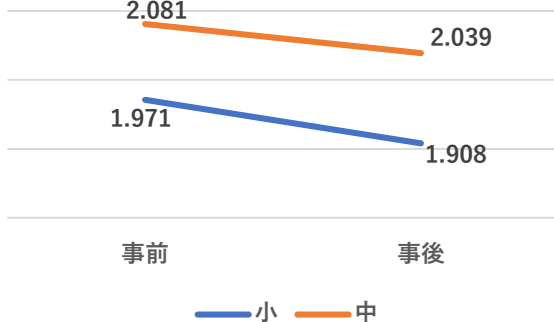
うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む。



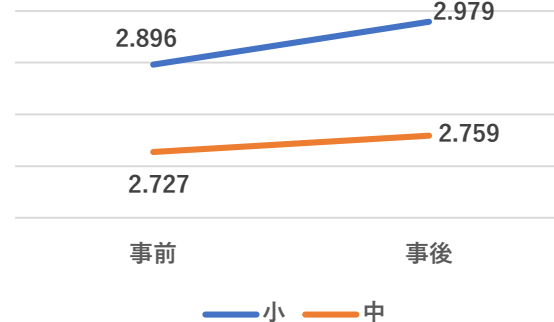
今が楽しければよいと思う。



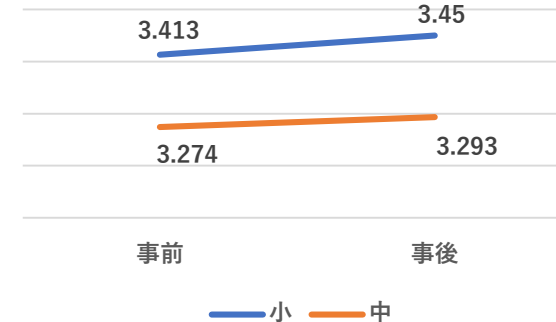
自分は役に立たないと強く感じる。



今の自分が好きだ。



自分には、自分らしさがある。



- ・ 自己肯定感に関する項目 13 項目中 8 項目において、児童生徒の自己肯定感の変容が見られた。
- ・ 課題に取り組み乗り越えることで得られる達成感や集団内の協力や摩擦の経験が自己肯定感を高めた。
- ・ 今後、ホームページへ掲載等、情報提供。

2.(1) 学校受入事業

ウ. 冒険活動実技研修会

- ・ 対 象：小中学校の引率教員
- ・ 内 容：アクティビティの指導法，施設見学，
リネンの使い方，レストラン食の実食 等
- ・ 参加人数：30名(中学校教員13名，小学校教員17名)

2.(1) 学校受入事業

＊参加者アンケートより＊

満足度：99％

・実際に布団の畳み方やアクティビティなどを体験することで、どのようなポイントで指導するかが具体的に分かりました。

・イニシアティブゲームの良さを実感できる研修だった。自身が体験することで、子どもたちにどうなってほしいのか明確になった。

・指導者の方が手厚くサポートしてくれたので、子どもたちとの活動がとても楽しみになりました。



2.(1) 学校受入事業

エ. 冒険活動指導者研修会

- ・ 対 象：「冒険活動教室」の計画作成者（全校）
- ・ 内 容：「冒険活動教室」の計画調整
- ・ 実施数：小学校5回，中学校20回
- ・ 実施方法：リモート
- ・ 地域学校園2回
（参集型 場所：冒険活動センター会議室）

【利用人数の推移（延べ）】

R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度※
2,664人 (122団体)	2,390人 (123団体)	4,822人 (147団体)	7,839人 (195団体)	6,816人 (197団体)

【R6年度内訳】

・ 学校関係	3団体	109人	・ 幼保関係	2団体	237人
・ 社会教育	26団体	1218人	・ 家 族	40団体	306人
・ 行政関係	11団体	583人	・ その他	106団体	3664人
・ 主催事業	9団体	699人	計	197団体	6,816人

2.(2) 一般受入事業



＊利用者アンケートより＊

- ・ 場内，テント内（サーキュレーター）等，安全に整備された環境で，安心して活動することができた。
- ・ 自治会，老人会，育成会合同でBBQを行った。炊飯場も使いやすし，職員の方の対応も親切で大変よかった。
- ・ ロッジもきれいでとても満足。子供たちとよい思い出を作ることができた。



ア. 公園・施設の安全管理

(ア)職員における定期点検

(イ)職員による修理・修繕

- ・ 野外炊飯場雨漏り修繕
- ・ 仮設テントや常設テントの補修
- ・ ロッジ， 園内階段の修復
- ・ 樹木の管理



2. (2) 一般受入事業

イ. サービス（おもてなし）の充実

新規(ア)『キャッシュレス決済導入』

- ・ 利用者の利便性の向上 (R6.7/20運用開始)
- ・ 利用件数:9件(R7.1.10現在)



(イ) 園内展示物の充実・管理

『森の本だなあ』

- ・ 南図書館との連携による読書スペース

『どんぐりテラス』

- ・ デッキの空きスペースを使用したテラス

『森のりばあし』

- ・ 自然の素材を使用した手作りリバーシ



2.(2) 一般受入事業

ウ. レストランとの連携

- ・ R7年度価格改定
- ・ レストランと定例会の実施

＊利用者アンケートより＊

（学校）大規模校のため何かと対応が大変だったと思いますが、スタッフの皆様に笑顔で対応していただきありがたかった。メニュー一つ一つがおいしく生徒もたくさんおかわりをする事ができてとても満足していた。

（一般）遅いチェックインにも関わらず丁寧に対応していただきありがたかった。また部活などで遠征の際は利用したい。提供食は全て食べきってよいとのことで、子どもたちも大変満足していた。



ア. のぼろう！みどりのはるな山！

- ・ 対 象：①小学1,2年生を含む家族
②小学3,4年生を含む家族
- ・ 内 容：親子で榛名山に登る。
- ・ 実施日：4/28(日)
- ・ 参加人数：①8組28名(応募数：10組)
②8組25名(応募数：21組)

2.(3) 主催事業



＊参加者アンケートより＊

満足度：100%

- ・ 家族だけで登るより，同年代の子どもたちと登ることができ楽しかった。
- ・ 新緑が気持ちよくとても気持ちよかった。
- ・ 自分たちだけでは山頂まで行けなかった。丁寧なサポートしていただいたおかげで，みんなで登ることができた。
- ・ 登山初心者の小学生にとっては，ちょうどいい距離の登山だった。

2.(3) 主催事業

イ. 冒険キャンプ

- ・ 対 象：小学5年生～中学3年生
- ・ 内 容：野外炊飯・川遊び・宿泊等の自然体験を行う。
- ・ 実施日：8/10(土)～12(月) 2泊3日
- ・ 参加人数：24名（応募数：49名）
内訳：小5(11名), 小6(9名), 中1(2名), 中2(2名)

2.(3) 主催事業



＊参加者アンケートより＊

満足度：100%

(児童生徒)

- ・イニシアティブゲームをしてみんなの仲が深まったと思った。
- ・うどん作りが楽しかった。とてもおいしかったので家でもやってみたい。
- ・自分からやってみることが苦手だったが、やってみようという勇気がもてるようになった。
- ・キャンプの経験を生かして友達にたくさん声を掛けていきたい。

(保護者)

- ・送り出す方も不安だったが、迎えに行った時に笑顔で楽しかったことを話してくれて安堵した。本人にも親にとってもいい経験となった。

2.(3) 主催事業

ウ. ちびっこキャンプ

- ・ 対 象：小学1,2年生
- ・ 内 容：ネイチャーゲーム・野外炊飯・登山
・ 宿泊等の自然体験を行う。
- ・ 実施日：8/24(土) 日帰り
9/21(土)～22(日) 1泊2日 計3日間
- ・ 参加人数：24名 (応募数：82名)内訳：小1(12名), 小2(12名)

2.(3) 主催事業



* 参加者アンケートより *

満足度：100%

(児童)

- ・カレー作りや朝ご飯作りをがんばった。
- ・友達に優しくすることができた。
- ・友達とテントに泊まるのが楽しかった。

(保護者)

・初めての人たちとお泊りするという経験はとても貴重なものになった。また、マッチの使い方やカートンドックの作り方を家で教えてくれたり、作った作品を大切に飾ったりと本人にとって自慢できる体験になったようだ。



エ. 家族ふれあいデイキャンプ

- ・ 対 象：市内在住・在勤で小中学生を含む家族
- ・ 内 容：家族で野外炊飯(クリスマスメニュー)
 - ・ クラフト(お正月飾り)を行う
- ・ 実施日 ：12/8(日)
- ・ 参加人数：15組 51名 (応募数：50組)

2.(3) 主催事業



Bouken
SHINOBU・UTSUNOMIYA



* 参加者アンケートより *

満足度：92%

- ・ 野外炊飯で子供主導でできたことや門松作りでみんな協力できたことがよかった。
- ・ 活動のペースが子どもにちょうど良く、サポートも入ってもらえたので、ストレスなく焦らず、親も楽しめた。
- ・ 素晴らしい自然と施設の中、家族で良い思い出が出来た。
- ・ スタッフが一生懸命動き、優しく声をかけてくださる姿に感銘を受けた。また参加したい!



2.(3) 主催事業

新規 オ. Bouken Day!

・対象と内容

①※市内小学生とその保護者:杉板焼き(1/26) 参加者:5組 17人

※①は、篠井地区市民センターと共催

②どなたでも:草木染め(2/23)

③どなたでも:火おこし(3/23)



※参加者の声より(第1回参加者)※

満足度:100%

- ・火おこしや板を焼いたり磨いたり全てのことが楽しかった。
- ・孫と有意義な時間を過ごすことができてよかった。
- ・お得に家族と自然の中で体験活動ができて大変満足。

2.(4) 自然体験活動に関わる人材育成事業



ア. 職員研修 (NEALリーダー養成講習会)

- ・ 対 象：活動支援にあたる職員
- ・ 内 容：自然体験活動指導者資格と同等の知識
・ 技能を身に着けるための研修



2.(4) 自然体験活動に関わる人材育成事業



イ. 宇都宮大学『野外教育』 (宇都宮大学との連携)

- ・ 対 象：宇都宮大学学生
(教員の免許取得のための選択授業)
- ・ 実施内容：自然体験活動の指導能力を身につけるための講習・演習
- ・ 参加人数：12名

2.(4) 自然体験活動に関わる人材育成事業



* 参加者アンケートより *

- ・挑戦することの大切さ，子どもと関わる楽しさを再確認することができた。
- ・子どもや指導者の方と直接関わることができ，子どもとの関り方をたくさん見ることができた。とても価値のある経験ができた。
- ・1日が本当に濃く，全てが学びの4日間だった。自分とも向き合うことができた。
- ・一緒に困難を乗り越えることは，人との距離をぐんと縮めることに効果的であると感じた。

2.(4) 自然体験活動に関わる人材育成事業



ウ. 冒険活動アクティビティ研修 (市教育センターとの連携)

- ・ 対 象：宇都宮市小中学校の教員
- ・ 内 容：体験を通して、自然体験活動の意義や効果について理解を深める
- ・ 参加人数：10名

2.(4) 自然体験活動に関わる人材育成事業



＊参加者アンケートより＊

- ・全ての活動にめあてがあり，最後にしっかりと振り返りを行うことで，体験を体験だけでは終わらせない大切さを改めて実感した。
- ・マウンテンバイクやカヌー体験等，普段することのできない体験ができ，有意義な研修となった。また，他校との先生方とも情報共有をすることができてよかった。



2.(4) 自然体験活動に関わる人材育成事業

エ. リーダーバンク事業

- ・ 対 象：市関連団体
- ・ 実 績：

(ア) 森のめぐみツアー

(宇都宮市花と緑のまちづくり推進協議会)

- ・ ネイチャーゲーム

(イ) 北生涯学習センター

- ・ 杉板焼き

(ウ) 宇都宮市スポーツ少年団リーダー研修会

(宇都宮市スポーツ少年団本部)

- ・ イニシアティブゲーム，カヌー等

2.(4) 自然体験活動に関わる人材育成事業

オ. ボランティアとの協働

新規 冒険活動ボランティア事業

- ・ 内 容：センター事業における活動支援等
- ・ 活動人数：26名
 - (内)現役学校教員 8名
 - (内)学生ボランティア 3名

カ. インターンシップ等の受入れ

- ・ 宮っこチャレンジ9校 27名
(宇都宮市立中学校の2年生)



ア. 子どものもりフェスティバル

- ・ 内 容：園内施設を活用した様々な自然体験活動や
協力団体の催し

- ・ 実施日：10/19(土)

- ・ 協力団体：12団体

- ・ 参加人数：約400名

- ・ イートランド(株)
- ・ ネイチャーフレンド(宇都宮大学)
- ・ 篠井地区ゆたかなまちづくり協議会
- ・ 松寿会
- ・ 南図書館
- ・ 自衛隊栃木地方協力本部
- ・ 宇都宮市レクリエーション協会
- ・ 宇都宮市ベエゴマ協会
- ・ 宇都宮ネイチャーゲームの会
- ・ 栃木県林業センター
- ・ ロープレスキュー栃木
- ・ 宇都宮ヤクルト物販株式会社

2.(5) 広報・理解促進事業



* 参加者アンケートより *

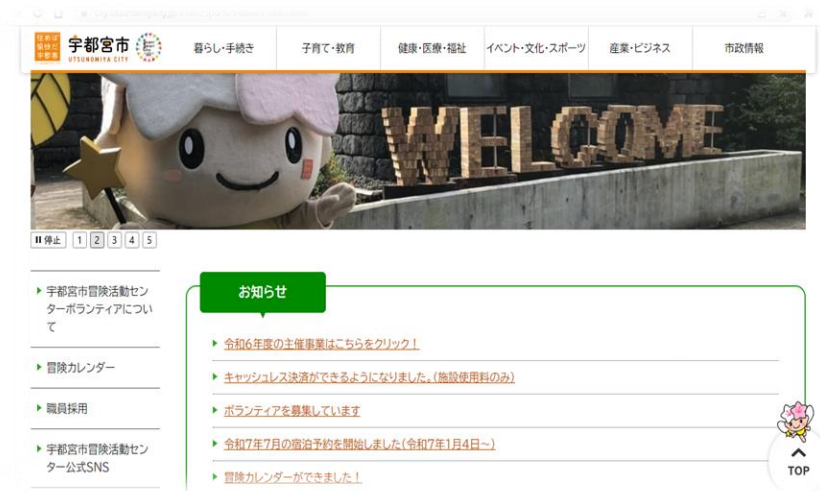
- ・子ども達がやりきれないほど沢山の遊びがあって、大満足していた。
- ・栗や落ち葉， 虫を見つける等， センターの大自然を満喫することができた。
- ・いろいろな活動があって楽しかった！ おうどんが美味しかった！
- ・ゲーム， YouTubeと離れて良い時間を家族で過ごすことができた。



2. (5) 広報・理解促進事業

イ. 知ってもらう運動（広報活動の充実）

- ・ インスタグラム，フェイスブックの掲載記事 各**103**件
（内容）自然，主催事業，一般利用等の案内・様子等
- ・ ホームページ:施設利用案内・主催募集案内 等



Instagram
フォロワー数**875人**！

2.(5) 広報・理解促進事業



ウ. 他機関との連携

- ・ 篠井（富屋）地区市民センターとの連携
⇒相互に常設掲示スペースの設置
⇒Bouken Day！の共催
- ・ 篠井農産加工所との連携
⇒手ぶちうどん作り（主催1件，学校2件）
- ・ 県林業大学校（R6.4開校）との連携
⇒フェスティバル協賛
- ・ U@りんくす（市教育センターとの連携）
⇒園内動画・写真等の提供
⇒オフ会にて施設利用
- ・ 篠井地区の方々との連携
⇒『森の巣箱』を設置



3. 協議事項



3. 協議事項 令和7年度事業計画(案)について【別紙】

(1) 学校受入事業

【方向性】適切な支援体制のもと，安全かつ円滑な運営を行う。

冒険活動教室	・ 全校2泊3日(小学校69校， 中学校25校)
調査研究	・ 一人一台端末となった現代の児童生徒， 保護者， 教職員の自然体験活動に関する実態を把握することで， 次の世代に向けて準備をするために調査を行う。
冒険活動実技研修会 (指導者養成)	・ 各学校の引率者を対象に， 活動の指導方法， 施設の利用方法等についての実技研修
冒険活動指導者研修会	・ 小学校指導者研修会 ・ 地域学校園指導者研修会 ・ 中学校指導者研修会

3. 協議事項 令和7年度事業計画(案)について【別紙】

(2) 一般受入事業

【方向性】安全・安心に利用できる環境整備を進めるとともに、利便性の向上やおもてなしの充実を図る。

公園・施設の安全管理	<ul style="list-style-type: none">・ 定期点検及び法定点検の確実な実施・ 危険個所の速やかな修繕等・ 施設の大規模改修（予定）
サービス(おもてなし)充実	<ul style="list-style-type: none">・ 予約システムの検討・ 園内展示物設置
レストランとの連携	<ul style="list-style-type: none">・ 定例会

※R7年度一般利用可能日 173日(R6比較+29日)

3. 協議事項 令和7年度事業計画(案)について【別紙】

(3) 主催事業

【方向性】事業の効果的・効率的実施や活動の充実により、
市民の自然体験活動の機会を充実する。

事業	日程	対象・人数
①新規家族ふれあいキャンプ	5/5～6	市内在勤・在住の小中学生を含む家族 12組
②冒険キャンプ	8/8～10	小5～中3年生 40名
③ちびっこキャンプ	8/23 9/27～28	小1～2年生 24名
④こどものもりフェスティバル	10/12	どなたでも
⑤家族ふれあいデイキャンプ	12/7	市内在勤・在住の小中学生を含む家族 15組
⑥Bouken Day !	1月～3月第4日曜日	どなたでも各日20名程度

3. 協議事項 令和7年度事業計画(案)について



新規 『家族ふれあいキャンプ』

- ・ 目的：①自然の中で基礎的な体験活動を通して
家族のふれあいを深める
②野外活動の普及及び定着
- ・ 内容：野外炊飯，登山，テント宿泊 等
- ・ 対象：宇都宮市在住または在勤で，
小中学生を含む家族 12組
- ・ 日程：5月5日～6日（1泊2日）

(4) 自然体験活動に関わる人材育成事業

【方向性】 自然体験活動指導に係る知識・技能を持つ人材の育成や受入れを行いながら事業運営を行う。

職員研修（NEALリーダー養成講習会）	冒険活動センター職員
宇都宮大学「野外教育」（3泊4日）	宇都宮大学共同教育学部学生
冒険活動アクティビティ研修	宇都宮市立小中学校の教職員
リーダーバンク事業	自然体験活動指導者取得者
冒険活動センターボランティア事業	自然体験活動指導者，学生等
インターンシップ等の受入	宇都宮大学共同教育学部等
宮っこチャレンジの受入	宇都宮市立中学校2年生

(5)広報・理解促進事業

【方向性】 ホームページやSNS等及び他機関との連携を活用し、冒険活動センターの理解と利用を促進する。

子どものもりフェスティバル	実施日：10/12(日) 施設の開放，自然体験等
知ってもらう運動	・ 広報うつのみや ・ 情報誌「こどもるっくる」 ・ SNS，ホームページ等を活用した情報発信
所報の発行	・ 定期的に発信
他機関との連携	・ 篠井地区市民センター ・ 栃木県林業センター・林業大学校 ・ 親学出前講座 ・ U@りんくす

4. その他



4. その他 今後の冒険活動センターの運営について



- 当センターについては、現在まで施設及び運営に関する課題が増えてきているところであり、これらに対応するとともに、令和8年度が30周年の節目であることから、将来を見据えた運営改善を図る機会として、既存の取組を生かしながら、施設及び運営に関するリフレッシュ事業に取り組む。

新イメージ化[R6～R9]

- ・プラン作り
(事業見直し含む)
- ・運営協議会

30周年事業準備[R7～]

- ・運営協議会
- ・施設改修開始

30周年事業実施[R8]

- ・飛躍の年へ
- ・運営協議会

